



12月22日実施「台風18号報告会」。松山河川国道事務所が住民へ説明した

河川氾濫の危険が高まっ

避難勧告の発令

台風18号での重信川流域の主降雨は、17日13時から20時です。短時間に集中して大雨が降り、重信川上流の間屋雨量観測所では、1日当たりの雨量が289ミリと観測開始以降第4位を記録しました。河川の水位も上昇し、重信川の出合観測所では、戦後最高となる5・65メートル、長尾谷川の夫婦水門遊水池側でも2・19メートルを観測。出合観測所の水位は、氾濫危険水位を50センチも超過していました（松山河川国道事務所「台風18号報告会」・町資料より）。

集中した大雨



西高柳避難所運営訓練の様子（29年12月）



平成29年台風18号 水位・勧告の状況

氾濫の危険があった重信川・長尾谷川の水位の状況と、町の避難勧告などの発令状況を、時系列でまとめました。

重信川出合観測所 避難判断水位(4.6 m)超過	17時30分
長尾谷川夫婦水門遊水池側 危険水位(1.6 m)超過 「避難勧告」発令 (新立・筒井・宗意原地区)	17時50分
重信川の水位が氾濫危険水位 (5.1 m)到達の恐れがあると河川 国道事務所から連絡を受ける	18時05分
「避難準備・高齢者等避難開始」 発令(大間・上高柳・恵久美地区)	18時35分
重信川出合観測所 氾濫危険水位(5.1 m)超過	19時00分
長尾谷川夫婦水門遊水池側 最高水位(2.19 m)観測	19時10分
国土交通省四国地方整備局の 緊急速報メール (河川氾濫の恐れ) 「避難勧告」発令 (大間・上高柳・恵久美地区)	19時33分
重信川出合観測所 戦後最高水位(5.65 m)観測	20時00分
「避難勧告」解除 (大間・上高柳・恵久美地区)	21時44分
「避難勧告」解除 (新立・筒井・宗意原地区)	22時20分

避難勧告 発令

下の表に示しているように、台風18号による被害は、近年にはないものとなりました。皆さんは、避難勧告などが発令されたとき、すぐに必要な行動が取れる備えができていたでしょうか。次のページの「避難に関するQ&A」で、自身の行動を振り返ってみましょう。

自身の行動を振り返ろう

たことから、町は一部地区に避難勧告を発令。7カ所の避難所を開設し、600人以上を受け入れました。

④避難の状況

612人が避難

発令理由	発令対象	開設避難所	実避難者数	計
長尾谷川 氾濫の 恐れ	新立 筒井 宗意原	3,822 世帯 8,704 人	松前小	74
			松前中	15
			松前公園	146
重信川 氾濫の 恐れ	大間 上高柳 恵久美	1,243 世帯 2,971 人	岡田小	202
			岡田中	100
			北伊予小	52
			北伊予中	23

⑤復旧活動

復旧活動	活動の内容
被害調査	床上浸水 45 戸、床下浸水 157 戸
消毒作業	288 件
し尿汲み取り	57 件
災害廃棄物回収	約 20 トン

※その他、り災証明書の発行(8件)、災害見舞金の支給(42戸)を行いました。

平成29年台風18号 町内被害状況・復旧活動

台風18号における町内の被害状況や復旧活動などをまとめました。

①住宅浸水被害

202戸の被害

区分	戸数	うち町営住宅戸数
床上浸水	45	17
床下浸水	157	79
合計	202	96

②道路冠水被害

一時通行止めも

主な発生箇所		
●農免道路 (上高柳・大間付近)	●筒井地区	義農住宅付近
宗意箱地区	今新開地区	江川団地～ 地藏町公園付近

●がついている箇所は、一時通行止めとなった箇所。

③その他被害

主な被害内容
消防車資機材搬送車、積載車水没
北川原・西高柳墓地墓石転倒

特集 みんなで考える

避難所運営

平成29年9月17日に本町に最接近した台風18号では、一部地域で避難勧告を発令しました。慣れない避難に戸惑った人も多かったと思います。そこで今回は、台風18号の被害状況などを振り返りながら、避難について学び、避難所運営について考えます。



重信川水位
戦後最高

5.65 m



Q どこに避難 すればいいの

A

次の指定避難所などに避難しましょう。ただし、既に周辺で災害が発生している場合など、避難することがかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合は、「近隣の安全な場所」や「建物内の安全な場所」へ移動しましょう。

地震と風水害で避難所の開設方法が異なります

相当規模の地震の場合は、直ちに全ての避難所を開設しますが、風水害の場合は、災害対策本部が状況に応じ、避難対象地区と避難所を定めて開設します。

総務課危機管理係
米家 悠介



指定避難所

一定期間、被災者が生活する場所。

施設名	住所
松前小学校	筒井 1175
松前中学校	浜 963
北伊予小学校	神崎 226
北伊予中学校	神崎 415-1
岡田小学校	西高柳 156
岡田中学校	昌農内 443-1
伊予高等学校	北黒田 119-2
ホッケー公園	鶴吉 118-1
松前公園	筒井 638

指定緊急避難場所

次の災害発生の（恐れがある）場合に、一時的にその危険から逃れるための避難場所。

【災害の種類】

洪水、高潮、地震、津波、火事

施設名	住所
コーポ鳥井	筒井 316
エミフル MASAKI 西側立体駐車場	筒井 850
グランフィールド 松前町舎前	筒井 961

※ この他、集会所や公民館は、災害時の一時待機場所となり、自主防災組織の活動拠点になります。

福祉避難所

介護の必要な高齢者や障がい者など、一般の避難所では生活しづらい人のケアを行う施設。

施設名	住所
福祉センター	筒井 710-1
養護老人ホーム 和楽園	大溝 96-1
ケアハウス ひまわり苑	鶴吉 635-1
総合福祉施設 エンゼル	北川原 33-1
介護老人福祉施設 こより	神崎 586-3
老人保健施設 菜の花	神崎 578-1
グループホーム ひなたぼっこ	西高柳 267-1
グループホーム なかがわら	中川原 168-1
介護付有料老人ホーム 笑歩会松前	筒井 317-2

Q 避難生活 はどうなるの

A

各避難所で決められたルールの下で生活することとなります。役場などの公的な機関は、災害対応を優先するため、避難所の運営は避難所に集まった地域の皆さんが助け合いながら行っていかねければなりません。

配慮が必要な人のスペースの確保、屋外避難希望者などへの対応、物資の提供方法…など、避難所で生活していくには事前のルール作りが大切です。



next
よりよい
避難所運営
のために

避難に関する Q & A

避難の場所、タイミングは一人一人異なります。このページを参考にして、自身や家族の避難方法などを事前に考え、地震や水害が発生したときには、迅速な行動で被害を最小限に抑えられるようにしましょう。

Q 避難するときの 持参物などは

A

ヘルメットを着用し、手は自由に動かせるようリュックサックにして、非常持ち出し品を入れましょう。避難に支障にならない10キログラムが目安です。



非常持ち出し品

水、非常食（保存でき、火を通さないもの）、医薬品（常備薬、軽症のけがの手当てができるもの）、応急生活用品（ラジオ、懐中電灯、携帯電話、予備電池など）、衣類（肌着、雨具、防寒具など）、貴重品

Q 避難情報 はどこで分かるの

A

テレビ、ラジオ、携帯電話会社の緊急速報メール、防災行政無線、町ホームページ、町公式防災Facebook ページ、広報車による広報などでお知らせします。

防災行政無線は、聞き逃した場合に電話で確認ができます。毎月、広報のお役立ちカレンダーでも電話番号を載せていますので活用してください。

防災行政無線の再生

☎ 961-7111



放送直後は電話が集中します。つながらない場合は、少し時間を空けてかけ直してください。

Q いつ避難 すればいいの

A

町が発令する避難に関する情報は、次の三つです。避難のタイミングを事前に考えておきましょう。

避難準備・高齢者等避難開始

いつでも避難ができる準備を行い、避難に時間がかかる人（高齢者、障がいのある人、乳幼児を連れている人など）は避難を始めましょう。

避難勧告

避難場所へ避難しましょう。地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難しましょう。

避難指示（緊急）

すぐにそこから避難しましょう。外出すると命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な所に避難しましょう。



二宮沙知さん
＝北黒田＝

HUGを体験
して、避難所
の様子を知っ

ておくことは大切だと感じました。
ペットの避難はどうするかなど、1
人1人が避難所生活について意識
する機会になると思います。



石橋崇平さん
＝西高柳＝

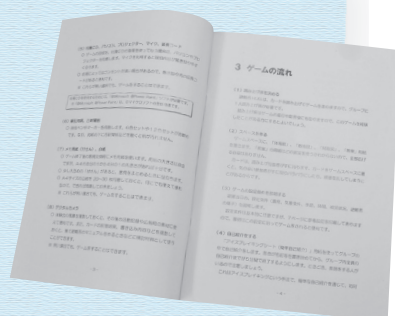
避難所では
割り当てられ
る限られた空

間の中で生活しないといけません。
HUGをすることで、それらが実感
として見えてきて、必要なものが何
かを考えることができます。

HUG
貸し出し中

Let's Challenge

町では、HUGの貸し出しをしてい
ます(12グループ分)。説明書なども
ありますので、使い方が不安な人も安
心して使用することができます。希望
する人は、総務課危機管理係(☎985-
4103)に電話してください。



活用しよう
避難所 HUG



避難所HUGは、避難所運営の模擬
体験ができる静岡県が開発したゲーム
です。避難者の情報が書かれたカード
を避難所の平面図に配置していきます。
ゲームの内容や方法を知り、避難所
運営に役立てましょう。

だということに分かる」
このように話すのは、実
際にHUGを体験した石
橋崇平さん＝西高柳＝で
す。石橋さんは、何度もH
UGを体験していますが、
グループで話し合うことで
「実際のとき、何が必要な
のかが見えてくる」と、繰
り返し体験することの大切
さを訴えます。

一方、「考え方の違いが
分かる」と話すのは、初め
てHUGを体験した二宮沙
知さん＝北黒田＝です。配
置に正解はありません。さ
まざまな人が限られた空間
での生活が強いられる中で
「折り合いのつけ方が大事

4 カード配置後、
グループ内で
課題を検討す
るとともに他
グループの配
置状況などの
確認や比較検討を行い、よりよい避
難所運営をみんなで話し合います。

3 プレイヤーは、
カードに書か
れた避難者
情報を基に、
その避難者を
避難所のどこ
で過ごしてもらうのがよいのか話し合
い、図面上に配置していきます。

2 プレイヤーは、
カードに書か
れた避難者
情報を基に、
その避難者を
避難所のどこ
で過ごしてもらうのがよいのか話し合
い、図面上に配置していきます。

1 プレイヤー(6
人1組を5グ
ループ程度)、
読み上げ係
(各グループ1
人)を決めま
す。1グループのプレイヤーは、6人
以下が推奨されています。

次々に訪れる避難者
避難所HUGでは、認知
症、心臓病、知的障がいのある
人や外国人など多様な人
が避難所に訪れます。押し
寄せてくる避難者をどこに
配置したらよいのか、限ら
れた時間で考えていかなけ
ればなりません。受け入れ
た後も、避難者は「使用禁
止のトイレを使いたい」「洗
濯をしたい」と、さまざま
な要望を投げ掛けてきます。

避難所HUGを通じて見え
るもの
「避難所はこういう様子
になってくると感じた」と、
二宮さんは付け加えます。
HUGによって避難者像
を想定し、さまざまな人た
ちと繰り返し行っていくこ
と。その中で、一人一人
の意見を聞きながらより
よい避難所運営について考
えていくことが大切です。

みんなで避難所運営を考え
よう